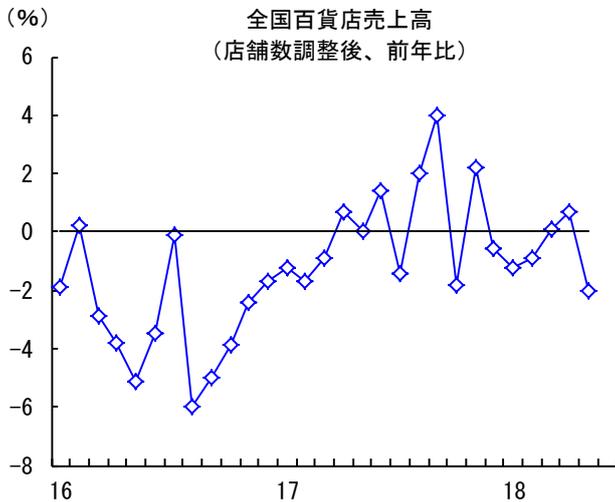


テーマ：百貨店売上高（2018年5月）
～天候不順もあり、5月の消費は低調～

発表日：2018年6月22日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528



(出所)日本百貨店協会「全国百貨店売上高」

(出所)日本百貨店協会「全国百貨店売上高」

(注)季節調整は第一生命経済研究所

日本百貨店協会から発表された18年5月の全国百貨店売上高は前年比▲2.0%（店舗数調整後）と、3ヶ月ぶりに減少した（4月：+0.7%）。インバウンドは引き続き非常に好調だったが、日本人客による売上が低調だった。商品別では、特に衣料品の落ち込みが大きい（前年比▲5.9%）。前年比でみた売上減少の理由の一つには、昨年5月に比べて土曜日が1日少なかったことがあるが、休日要因を考慮した季節調整値（筆者試算）でも、百貨店売上高は前月比▲1.2%と減少している。弱い結果といって良いだろう。

5月は雨が多く、特に月上旬の降水量は非常に多かった。こうした天候不順による外出手控えに加え、月上旬は昨年と比べて気温が低かったことも、夏物衣料の販売には痛手となった。このように、かき入れ時となるGW期間中に雨と気温の低下が重なったことで、主力商品である衣料品の販売が大きく下押しされたようだ。また、衣料品については、4月が好天と気温の上昇に恵まれたことで、夏物衣料の購入前倒しが生じていたことの反動が出たことも、5月の下振れに影響しているものと思われる。

なお、5月に売上が低調だったのは百貨店だけではない。チェーンストア販売額が前年比▲2.3%（4月：▲1.2%）、コンビニエンスストア売上高が前年比▲1.2%（4月：+0.7%）など軒並み悪化し、季節調整値でも減少となっている。ソフトデータでも、景気ウォッチャー調査の現状判断DIで家計部門が大きく落ち込んでいることが確認できる。天候不順による外出手控えと4月の消費が強かった反動から、5月の個人消費は低調に推移したとの評価になるだろう。来週公表される商業動態統計の小売業販売額でも弱い結果が予想される。

1-3月期の個人消費下押し要因となった野菜価格の高騰は既に解消されており、4-6月期の消費は持ち直しが見込めるとの見方が（筆者を含め）多い。5月の落ち込みには、好調だった4月の反動という面もあることから、このシナリオを撤回する必要は今のところない。ただ、4-6月期の反発度合いが想定よりも小さくなるリスクは意識しておいた方が良いでしょう。